

日本臨床検査専門医会

平成 30 年度第二回常任幹事会議事録

平成 30 年 9 月 29 日

# 日本臨床検査専門医会

## 平成 30 年度 第二回常任幹事会議事録

開催日時：平成 30 年 9 月 29 日(土曜日)15:00～16:40

開催場所：日本臨床検査専門医会事務所

出席者：登勉 会長, 佐藤 尚武, 谷 直人 各副会長,

東田 修二, 五十嵐 岳, 東條 尚子, 古川 泰司, 盛田 俊介, 宮崎 彩子, 米川 修

各常任幹事, 佐守 友博, 土屋 達行 各監事

事務局：市川 綾子

(敬称略)

定刻、登勉会長挨拶の後、議長として登勉会長を満場一致で選任した。議長は議長席につき開会を宣した。

### [審議事項]

#### 第1号議案 議事録署名人選任について

議長は、本会の議事録署名人の選出を議場に諮り、下記の2名を議事録署名人として満場一致で選任した。

議事録署名人：佐藤 尚武 副会長, 宮崎 彩子 常任幹事

### [報告事項]

#### 1. 各種委員会報告

##### ①情報・出版委員会

盛田 俊介委員長より、以下の報告があった。

2018 年版要覧発刊に向けて作業を行っている。構成案は以下のとおり。

- ① 目次 ② 役員名簿 ③ 会則 ④ 会員名簿 ⑤ 名誉会員名簿 ⑥ 賛助会員名簿
- ⑦ 歩みと活動 ⑧ 日本専門医機構 基本領域 臨床検査専門医更新基準
- ⑨ 参考資料集 (専門医制度, 認定更新制度, 卒後研修カリキュラム, 医制度規定・内規, 報告集)
- ⑩ 認定研修施設一覧 ⑪ 専門医会ネットワークシステム紹介

原稿依頼した先生方からは既に原稿は届いており、今後仔細部分詰めながら八木書店と相談し、全体レイアウトを決めていく。2018 年中には発刊できる予定。

##### ②教育研修委員会

米川 修委員長より、以下のとおり報告があった。

- 1)平成 30 年度第 28 回日本臨床検査専門医春季大会(松本, 本田孝行会長)時に

生涯教育講演会専門医講習(医療安全)(5/11)を実施。内容は、以下のとおり。

「医療安全概論」: 鮎澤純子先生(九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座)

「医療現場におけるヒューマンエラーの現状と対策」: 海渡 健先生(東京慈恵医科大学  
附属病院 中央検査部診療部長/医療安全管理部副部長)

司会: 橋口照人先生, 米川 修

## 2) 第 87 回日本臨床検査専門医会教育セミナー(5月20日(日)実施)

五十嵐岳常任幹事にも協力いただき、アナウンスに力を入れ、参加者を増やす予定だったが、結果的には例年並みの参加人数だった。帝京大学霞ヶ関キャンパスの教室を、直前に2室から1室利用に変更した結果、支出は昨年と同じくらいになった。

今回は、新たに「遺伝子検査医学講義」を加えた。

会計 収入 参加費 10,000 円×44 名 合計 440,000 円

支出 会場費 118,800 その他 合計 578,243 円

## 3) 日本臨床検査医学会との共催シンポジウムについて

第 65 回日本臨床検査医学会学術集会(京王プラザホテル)時の 11/17(土)9:00-11:00 に開催予定。

タイトル:「新専門医制度元年 一般市中病院での臨床検査専門医の役割」

演者はベテラン・若手・男女織り交ぜ4名をお願いした。

演者: 中村文彦先生(奈良県総合医療センター中央臨床検査部)

「臨床検査専門医不在の総合病院への赴任経験」

村田哲也先生(JA 三重県厚生連鈴鹿中央総合病院中央検査科)

「地域病院における臨床検査専門医の役割」

増田亜希子先生(三井記念病院臨床検査科)

「市中病院の臨床検査専門医としてできること —大学との連携を活かして—」

三好夏季先生(広島市立広島市民病院臨床検査部)

「電子カルテ機能を活用した診療支援の実際」

司会: 松尾収二先生(天理よろづ相談所病院), 米川 修

本シンポジウムに関して佐藤副会長より以下の発言があった。日本専門医機構認定専門医の指導医になるためには5年間で指導医講習を必ず1回受講しなければならない。今年度から指導医講習は臨床検査領域講習の一つになり、学会の日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会から専門医会でも指導医講習を企画して欲しい旨の要請があった。同委員会からの推薦があり、米川委員長の承認を得て本シンポジウムを指導医講習として申請し、既に認定されている。

#### 4) 日本臨床検査専門医会要覧改定の件

臨床検査専門医としての報告書は、前回の内容を基本的に踏襲予定で、執筆者には承諾済み。新たに、遺伝子検査に関する検査(宮地勇人先生 東海大学)、生理学的検査(小谷和彦先生 自治医科大学)に原稿依頼した。

#### 5) 第 87 回日本臨床検査専門医会教育セミナー予定

会場: 帝京大学霞ヶ関キャンパス, 日時: 2019 年 5 月 19 日(日)

#### 6) 平成 31 年度第 29 回日本臨床検査専門医春季大会(広島, 横崎典哉会長)

会場: 広島県医師会館 日時: 2019 年 6 月 1 日(土)

生涯教育講演会専門医講習では、感染対策と医療倫理の分野で準備中。

「感染管理・感染制御と検査室(仮)」: 大毛広喜先生(広島大学病院 感染症科 教授)

司会: 高城一郎(たかじょういちろう)先生(宮崎大学医学部附属病院 膠原病感染症内科感染制御部 講師)

「医療倫理」: 通山 薫先生(川崎医科大学 検査診断学 教授)

司会: 米川 修(聖隷浜松病院 臨床検査科)

### ③ 資格審査・会則改定委員会

東條 尚子委員長より、以下のとおり報告があった。

来年の名誉会員の候補者は7名、有功会員の候補者は 10 名である。有功会員の推薦は、会費の支払いが済んでいることが前提になる。有功会員候補 10 名の中のうち 3 名が現在会費未納である。会費の納入が確認できた候補者を次の幹事会で推薦し、総会で承認をもらう。名誉会員については、来年 1 月 1 日の時点で満 70 歳になる候補者 7 名の中に現役の役員が 2 名(佐守, 土屋両監事)いる。過去に現役の役員を名誉会員として推薦したことはない。この点についてご審議いただきたいと発言があった。

現役役員の名誉会員推薦について議場に諮ったところ、任期満了後の翌年にあらためて推薦をする、ということで異議なく、了承された。

東條委員長より、名誉会員 5 名、有功会員 10 名(会費納入済として)次回の幹事会に推薦する旨発言があった。また、登会長より、昨年入会時に既に満 70 歳を超えている会員があったが、有功会員の推薦条件に会員歴が何年以上という規定が必要ではないか、と発言があり、次回の幹事会までに会則改定委員会で検討することとなった。

### ④ 渉外委員会

谷直人 委員長より、以下の報告があった。

7/20 に東京ガーデンパレスで第 35 回振興セミナーを開催、参加費 1,000 円ということで有料

参加者がいつもより多かった。高木前監事より指摘されていた費用の抑制については、節約はしたが支出合計は昨年とあまり変わらなかった。また、参加企業(17社)にアンケートをとった結果、振興セミナーについてはほぼ継続希望だった。情報交換会についても「必要」の回答が多かったが、今年は参加費を下げたので情報交換会への出席を遠慮されていた参加者もあった。取り上げてほしいテーマの記入は8回答あり、渉外委員会でこの中から選んでいこうと考えている。

準備・当日の手伝いについては、「可能」の回答が9社あり、これからは当番制などにして今までの固定メンバーの負担は減らしていきたいと考えている。

#### ⑤広報委員会

五十嵐 岳委員長より、以下の報告があった。

- 1) レジメントノートの連載: 順調に進行中、3年目の連載継続も決まった。
- 2) ハンズオンセミナー: 8/19 に臨床検査医学会のライフワークバランス委員会と合同で、若手で臨床検査に興味がある人(学生5名、初期研修医7名)を集め、開催。
- 3) ワークショップの企画: 臨床検査医学会ワークライフバランス委員会と合同で準備中。今年は11/18(日)の9:00-11:00に予定。
- 4) 霞が関子ども見学デー: 臨床検査振興協議会広報委員会と合同で実施。初日で約800名が来場、盛況だった。
- 5) 臨床検査振興協議会と合同で Facebook を立ち上げる予定: 臨薬協など関連の団体の情報もすべて集約できるようなシステムを作りたい。りんしょう犬さんの著作権取得を進めており、ラインのスタンプを実現させたい。
- 6) JACLaP NEWS: 会員の声も今年も集まらず、誌面が作れないという状況。LabCPとの差別化も図りたいので、一案として「趣味に関するコーナー」を考えている。趣味という側面から、先輩の先生方との繋がりを図りたい。
- 7) 全国紙への連載: まだ希望の段階だが、原稿料が出るところで続けられたら、と考えている。臨床検査に関するクイズ問題等の記事が掲載できればよい。

登会長より、JACLaP NEWS の原稿については指名して執筆をお願いするのもよいと思う、と発言があった。

#### ⑥保険点数委員会

古川 泰司委員長より、以下の報告があった。

##### 1) 内保連第1回社員総会報告(2018/6/26)

平成30年度社会保険診療報酬改定の総括として、平成30年度医療技術評価提案書(既掲載)改定結果は、当会の要望19項目に対し、要望通り3項目、一部反映7項目で、全体の比率は悪くなかった。臨床検査医学会の状況と併せて学術集会最終日(11/18)に松下一之先生と活動報告の予定。

## 2) 次期改訂に向けての活動

- ・加盟学会としての今回の対応総括は、内保連からの質問に答える形で回答している。提案への対応としての矛盾点では、検査医学会提案の輸血関連検査で点数の齟齬があった。また、今年末の改正医療法施行を受けての対応を検討中。AI 対応と時期改定要望についての会員アンケートを実施。厚労省に対しては、AI 対応について、遺伝子パネル検査において国の統合データベースを使用する場合の加算を提案。
- ・臨床検査振興協議会への要望リスト提出(9/15)・・・項目数は 12 (検査医学会より 17)
- ・第一回委員会・保険点数委員会・・・臨床検査医学会・臨床検査点数委員会と合同 (今後とも継続予定)
- ・免疫電気泳動に関する会員アンケートについては、会員アンケートの公表・投稿を行う場合、点数改定以後になると判断されるので、2020 年改定に向け、回答いただいた同一施設に改定後の運用状況に関する対応を再度質問したい。

### ⑦ネットワークシステム委員会

宮崎 彩子委員長より、2018 年度版の要覧にネットワークの紹介文、使い方(HP と同様)を掲載いただく予定であること、学術集会時に受付で宣伝を兼ねてデモンストレーションを行うこと、学術集会中に委員会開催予定であることが報告された。

登会長より、委員会開催の際には、今後どうしていくのか、現時点の評価も含めて、方向性を出したい、また、医療界の他の専門の方や一般の方へどうアピールしていくのか、信頼できる情報を提供できるかを考えていく旨発言があった。

## 2. 「全国検査と健康展」報告

✕谷 直人副会長より、以下の報告があった。

10/7-12/9 まで全国の会場で実施。そのうち 11/11 までは出務予定の医師は決まっている。学術集会の日程と重なる会場、派遣医師が未定の会場がいくつかある。全国といいながら 20 会場のみで、なかには都道府県単独でやっているところもある。もう一度日臨技とも相談したい。

## 3. 平成 30 年度第 2 回総会講演会

佐藤 尚武副会長より、以下の報告があった。

今回の学術集会では 22 のプログラムが専門医資格更新のための講習会として認定されたが、指導医講習は専門医会との共催シンポジウム 1 つだけ、とのことなので三役の了解を得て、この講習会を指導医講習として企画し、講師は熊坂一成先生にお引き受けいただいた(演題:

「今、臨床検査医・指導医に求められるもの」。熊坂先生からの希望もあり、追加発言を 2 名の先生(宮地先生, 奥住先生)にお願いした。急ぎ指導医講習として認定申請をする。

注) 後日、指導医講習として認定された。

登会長より、講演会の内容については報告とともに審議していただきたい、と発言があり、議場に諮ったところ、全員異議なく了承された。

×谷副会長より、今後専門医会で継続的に指導医講習をしていただくよう希望する、と発言があった。

#### 4. 第 29 回(平成 31 年度)春季大会(広島・横崎典哉大会長)について

東田 修二庶務会計幹事より、平成 31 年 5 月 31 日、6 月 1 日に広島県医師会館で開催予定である旨報告があった。

#### 5. 臨床検査専門医・管理医審議会報告

佐藤副会長より以下の報告があり、東田庶務会計幹事および古川幹事より補足説明があった。

##### 1) 第 10 回臨床検査管理医認定試験結果について

8 月 5 日(日) 帝京大学板橋キャンパスにて実施:受験者:39 名(昨年度は 19 名) ,  
結果:全員合格。今年をはじめて専門医認定試験と同日の日程を組んだ。受験者を臨床検査専門医の取得にもつなげる意図があったが、受験者の年齢が高く必ずしもその流れにはならない予想となった。

##### 2) 試験委員会報告および第 35 回臨床検査専門医認定試験結果について

8 月 4 日(土)、5 日(日) 帝京大学板橋キャンパスにて実施  
受験者:23 名(初回受験者:19 名, 再受験者:4 名[全科目:3 名, 1 科目:1 名])  
合否判定に関しては合格基準で議論があったが、最終的には 16 名合格(合格率:69.7%)  
となった。

##### 3) 第 35 回臨床検査専門医認定試験会計報告が古川試験委員長よりあり、承認された。

##### 4) 新専門医制度関連事項

・来年度専攻医採用数のシーリングについて(臨床検査領域はなし)、臨床検査専門医に関しては東京都に偏っても問題はない。

・日本専門医機構 委員会の委員について

常置委員会(基本領域研修委員会, 専門医認定・更新委員会)・アドホック委員会(基本領域連携委員会)の委員については山田 俊幸 先生(副理事長, 日本臨床検査医学会 日本専門医機構認定臨床検査専門医 研修プログラム認定委員会および更新資格審査委員会 委員長)を選出

## 5) その他

### 第 3 回 臨床検査専門医・管理医審議会の日程

2018 年 12 月 22 日(土), 10:30~12:00

専門医・管理医単位更新認定学会に関して, 学会ごとに一方は単位が認められ, 一方は認められない, 等認定がバラバラなので, 臨床検査専門医と臨床検査管理医間で整合性を図っていく。

米川幹事より, 試験問題に関して教育セミナーの受講生, 特に講師からどのような問題が出されているか, 情報がほしいと要望があった旨発言があった。

古川幹事より, 試験委員会のほうでも同様の議論があり, 多肢選択(MCQ)に関しては開示する方向で動いている, 具体的には, 2015 年から始まった MCQ を順次臨床病理に載せる予定, 初回掲載は 11 月号となる, と報告があった。

宮崎幹事より記述についてもどの程度のレベルが要求されるのか知りたい, という声がある, と発言があった。

登会長より, MCQ 以外の問題について, また求められるレベルについて知りたい, という要望は米川幹事がまとめて, 試験委員会に伝えてもらいたい旨発言があった。

## 6. 臨床検査医学教育アンケート調査中間まとめの報告

登会長より, 以下の報告があった。

2017 年の6月に教育研修委員会と, 当時の本田副会長を中心にアンケート調査していただいた。8割をこえる回答があった。アンケートの内容は5項目あるが, そのうちの 1 教育体制については, 臨床検査講座が検査部に代わる, または他の講座に振り替えられるという傾向が出ている。調査は昨年 6 月の時点なのでそれ以降もたとえば岐阜大学, 京都大学など教授・講座がどうなるか。傾向としてはどんどん独立した講座がなくなっていった教授が変わる時点で方向転換していく傾向がある。私立の場合は比較的そういった流れになっていないが, 今後については注視していく必要。教授ポストについては, 傾向としては厳しい状況。教員については, 国立の場合はどちらかというと検査医学講座が感染症臨床検査医学講座のほうに動いている傾向がある。

11 月の総会までにはまとめて, 今発表したことはレポートの形で臨床病理に投稿したいと思っている。最終的なまとめは臨床検査医学教育及び臨床実習のことも含めて書き上げる予定。できれば1回きりの調査ではなく, 今後どう変わっていったのか見ていきたいので3年おき程度でアンケートを実施したい。

## [審議事項]

### 第2号議案 新年度事業計画について(総会提出予算について)

議長は、新年度予算について東田 修二庶務会計幹事に説明させた。東田幹事より、

- ・会費収入については実際には未納の会員が出るので予算よりー70万くらいになる。
- ・賛助会員は今年より2社減る(三和化学, 大阪健康倶楽部) 予定で予算を立てる。
- ・振興セミナーは参加費を下げたので参加人数は増えているが、収入としては減る。
- ・支出については、要覧印刷代は来年度はなしの予定。

また、次の幹事会までに中間決算の数字を出し、予算額を整える予定である旨説明があった。

✕谷 渉外委員長より、振興セミナーについては参加費 1,000 円、懇親会 1,000 円とすれば予算を減らさないですむ、と提案があり、承認された。

佐守 監事より、振興セミナーの案内を社長宛にも出してほしい、また要覧の賛助会員のページで各社アピールするような形にできないかと要望があった。

✕谷 渉外委員長より、振興セミナーでは来年から抄録を作る予定で、手伝ってくれた会社の広告を載せるようにしたいと発言があった。

以上をもって全議案の審議並びに報告を終了したので、議長は閉会を宣し解散した。

### 議事録署名人

平成 30年 11月 14日

佐藤 尚武

---

平成 30年 11月 16日

宮崎 彩子

---